

# 慢性腎臓病患者さんの、“健康関連生活の質”と“患者医療参加度”についての研究結果のご報告

～全国規模の研究から見えたこと～

## 【謝辞】

本研究にご協力いただいた全国の NPO 法人腎臓サポート協会及びその会員の皆さまに、心より御礼申し上げます。皆さまのご協力によって、貴重な知見を得ることができました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

本研究は、2025 年 2 月付けで、腎臓病に関する国際医学雑誌 Journal of Nephrology に掲載されました。

## 1. 背景：なぜこの研究が必要だったのか？

慢性腎臓病は、成人のおよそ 8 人に 1 人が該当するとされる身近な病気です。しかし、自覚症状が乏しいために、早期発見・早期治療が難しいという課題があります。さらに、病気の進行を防ぐためには、食事療法、服薬管理、生活習慣の改善といった、患者さん自身の取り組みが不可欠です。そのため、患者さんが医療情報を正しく理解し、自発的に行動できるかどうか、病状の進行に大きく影響します。

患者さんご自身の活動として近年、ヘルスリテラシー（健康や医療に関する情報を適切に理解し、評価し、活用する能力）や患者医療参加度（患者さんご自身が、ご自身の意思で治療方法を選択し、積極的に医療に参加すること）が注目されており、健康関連生活の質（病気や治療が、患者さんの主観的な健康感（精神的な健康、活力、痛みなど）や、日常生活、仕事、社会活動に与える影響）に影響する可能性が示唆されています。

そのため、今回皆さまにご協力頂き、日本における患者医療参加度と健康関連生活の質の関連性を研究致しました。

## 2. 研究の方法

今回の研究では、慢性腎臓病の患者さん 1,216 名を対象にアンケート調査を実施しました。調査では、2 つの点に注目しました：1 つ目は「生活の質」、2 つ目は「患者医療参加度」です。参加者の年齢は平均 69 歳で、男女比は男性約 66%、女性約 34%でし

た。また、透析を受けていない方が約 47%、血液透析が約 30%、腹膜透析が約 9%、腎移植後の方が約 13%でした。

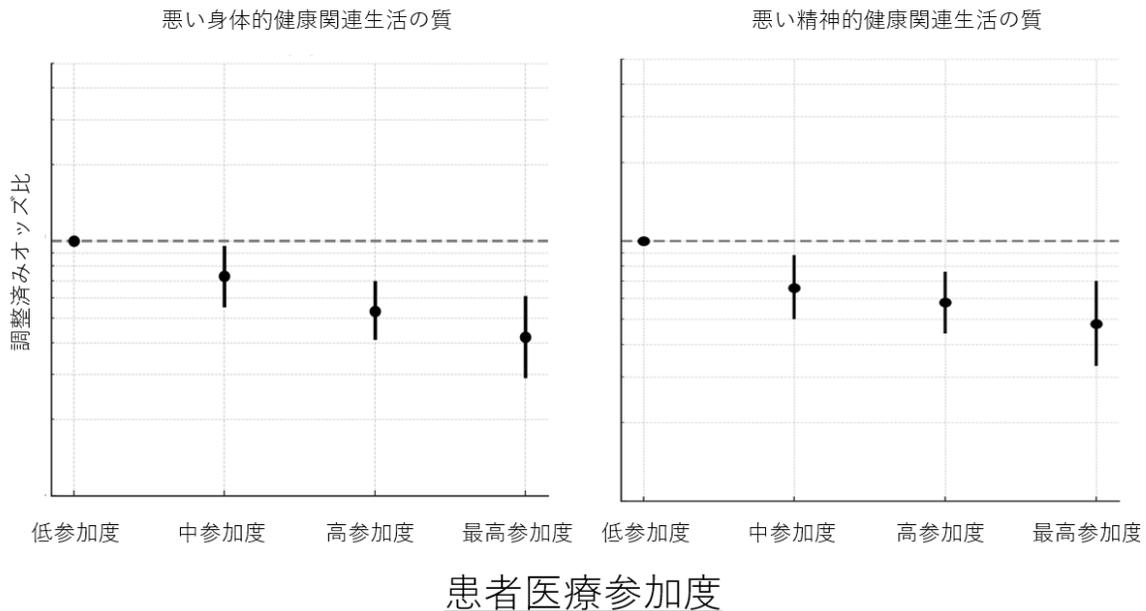
### 3. 主な結果

・患者医療参加度が高いグループに属する人ほど、低いグループに比べて、身体的な健康関連生活の質が悪い人が、少ない傾向がみられました

中程度のグループ：調整済みオッズ比 0.73 [95%信頼区間：0.55-0.96]

高いグループ：調整済みオッズ比 0.53 [0.41-0.70]

最も高いグループ：調整済みオッズ比 0.42 [0.29-0.61]



注釈：身体的健康関連生活の質でも、精神的健康関連生活の質でも、患者医療参加度が高いほど、悪い生活の質が少ないことがわかりました。すなわち、患者医療参加度が高いほど、慢性腎臓病患者さんでは、身体的にも精神的にも生活の質が高いことを示します。

### 4. この研究からわかること

慢性腎臓病の治療では、医師の指示を守るだけでなく、患者さんご自身がどれだけ自律的に行動できるかが重要です。今回の結果から、情報をきちんと伝え、患者さんの

“行動を後押しするような支援”の重要性が明らかになりました。特に、透析中の方や高齢者に対しては、わかりやすく丁寧な説明や、継続的な支援がより必要とされます。

## 5. 今後への提案

今後の慢性腎臓病の治療では、患者医療参加度を高める教育プログラムの導入が期待されます。例えば、患者さん向けの学習教材、グループ学習、医療者との対話の場を設けることが効果的です。また、医療者自身も、患者さんの理解度や行動力を把握しながら寄り添った支援を提供する姿勢が求められます。

患者さんと医療者が“対話と協力”を通して、より良い治療・生活を築くことが、これからの慢性疾患管理の鍵となるでしょう。

## 発表論文詳細

Kobayashi D, Ganse M, Shinoda T, Hamada C, Hara S, Aikawa A, Iino Y, Komatsu Y. A survey on the association between patient activation and quality of life among patients with chronic kidney disease in Japan. *J Nephrol*. 2025 Feb 24. doi: 10.1007/s40620-025-02235-3. Epub ahead of print. PMID: 39994167.